

番号	12	平成28年度公共事業事後評価調書	担当課名[農地保全課]		
事業名	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業		事業主体 静岡県		
箇所名	みとか いな とり 見高稲取		市町名 東伊豆町 河津町		
事業概要					
受益面積	191.0ha	採択年度	平成元年度		
			完了年度		
当初			平成22年度		
実績			平成22年度		
事業費	前回	1,951百万円 (H21計画変更時)	実績		
			2,014百万円		
事業量	農道工 延長 4,263m、 車道幅員5.5m (全幅7.0m)				
事業の目的・必要性					
<p>本地域は、東伊豆町稲取地域と河津町見高地域における樹園地が展開する丘陵地内で、柑橘類の栽培が盛んな地域である。</p> <p>本地域は、集落から樹園地に向う狭小な農道はあるものの、幹線農道が無く、農産物の輸送等に苦慮していた。このため、国道135号を起点とし、樹園地を縦断し、JA伊豆太陽の共同選果場に接続させ、流通の合理化や農作業効率の向上を図るため農道の建設を実施した。また、大型車両の通行が可能となることから、災害時の国道135号の迂回路の役割や、観光と連携した農業の展開が期待される。</p>					
事業の効果等					
費用対効果 分析結果	前回 計画 変更 (H21)	B/C 1.67	総費用 23.81 億円 (事業費: 18.38 億円) (再整備費等: 5.43 億円) (関連事業費: - 億円)	総便益 39.95 億円 (食料安定供給確保効果: 34.41 億円) (農業持続的発展効果: - 億円) (農村振興効果: 5.54 億円)	基準年 平成21年
	事後	B/C 1.51	総費用 23.81 億円 (事業費: 18.21 億円) (再整備費等: 5.60 億円) (関連事業費: - 億円)	総便益 36.17 億円 (食料安定供給確保効果: 30.59 億円) (農業持続的発展効果: - 億円) (農村振興効果: 5.58 億円) (多面的機能発揮効果: - 億円)	基準年 平成27年
1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回再評価時と比べ、みかんと甘夏の作物単収が減となり、総便益が減額となった。 					
2) 事業効果の発現状況					
<食料安定供給確保効果> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業実施以前は、狭小で路面状態の悪い農道での輸送であったため生産物の一部に荷傷みが生じ、高品質品として扱われなかったものが、農道の整備により荷傷みが解消された。(約43t) ・ 農道の建設に伴い、農業輸送に使用する車種の大型化(軽トラックから小型トラック1t)、経路の短縮、走行速度の上昇などの改善が図られ、事業実施前に比べ地区内における農業輸送総時間が29,281時間の減少となった。 ・ 柑橘類の単位面積当たりの収量が、甘夏で-65kg/10aになったため、総便益が減となった。 					
<農村振興効果> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農道の建設により、集落から国道等へのアクセスが良くなり、事業実施前に比べ日常生活における移動に要する時間が10,811時間の減少となった。 					
事業により整備された施設の管理状況					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路機能の維持管理は、施設管理者である東伊豆町及び河津町により適正に行われている。 					

事業実施による環境の変化

- ・共同選果場への出荷、ほ場への通作において、軽トラックから小型トラックに移行するなどの改善が図られた。また、輸送距離が短縮した。これらにより、輸送に掛かる労務、経費などが削減され、物流の効率が向上した。
- ・本農道により、見高地区、稲取地区に点在する集落が連結され、また、国道135号への接続も容易になることから、買い物などの日常生活の利便性が向上した。

社会経済情勢等の変化

(1) 地域社会の動向

- ・H28年4月に、地区に隣接する農地（東伊豆町稲取地内）で、市民農園が新たに開設された。この市民農園の利用者のターゲットは、東伊豆町及び近隣市町の別荘所有者のほか、首都圏の居住者であり、交流人口の増による地域活性化が期待される。
- ・ススキの名所である細野高原など、地区内の拠点施設を連結する農道は、観光面においても重要なインフラである。
- ・伊豆見高入谷高原地区は、平成25年度に「ふじのくに美しく品格のある邑」に登録されている。地区で運営している伊豆見高入谷高原温泉は、伊豆の秘湯として人気が高い。併設するコテージでの宿泊、農産物や加工品の直売に多くの観光客が訪れている。

(2) 地域経済の動向

- ・東伊豆町と伊豆急行(株)は、オリーブの産地化を目標に、オリーブ栽培の普及を目指している。伊豆急行(株)によるオリーブ苗の無料配布などの取組もあり、地区内ではオリーブ栽培の機運が高まっており、搾油所の設置も検討されている。
- ・稲取地区で、栽培されたニューサマーオレンジを素材とした食品の加工・販売を行っている「稲取若旦那三人衆」は、農道建設を契機に、河津桜や温泉等に訪れる観光客の周遊が可能となることから、「農業」、「観光」、「食」を組み合わせた取組を検討している。

対応方針（案）

(1) 評価結果

- 事業効果は発現しており、改善措置の必要はない。
- ・走行経費の縮減効果が十分に発揮されている。
- ・本地区においても、営農者の高齢化、後継者不足、作物価格の低迷など、農業を取り巻く環境は厳しい状況であるが、本地区の耕作放棄地発生割合は、他所に比べ低い状況であり、営農意欲の維持に役立っている。

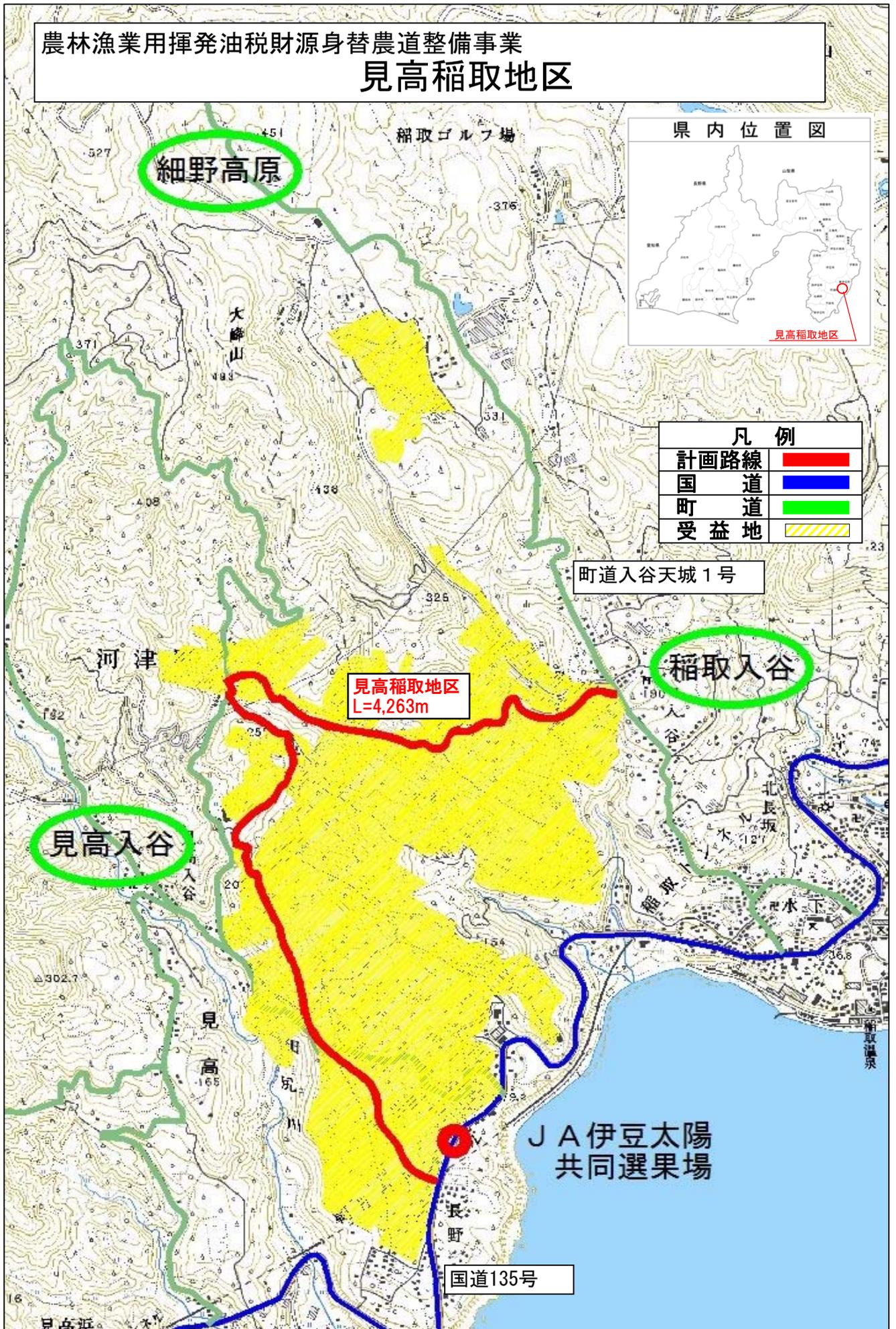
(2) 今後の課題等

- ・本事業により地域の基幹的な農道が整備されたことから、支線農道の整備を進め、樹園地の産地化を強化する生産基盤の充実を目指す必要がある。また、観光農業などの新たな取組を視野に入れた産地作りを検討していく。

(3) 同種事業への反映等

- ・農業輸送の効率化を図るため、集落、農地、拠点施設、交通拠点を効果的に接続する基幹農道の整備と合せ、支線農道や用水整備等も含めた総合的な整備を推進する。

農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業
見高稲取地区



凡例	
計画路線	■
国道	■
町道	■
受益地	■

町道入谷天城1号

見高稲取地区
L=4,263m

JA伊豆太陽
共同選果場

国道135号

輸送形態の改善



整備前は、軽トラックの通行が精いっぱい
の細い農道で、通作や選果場への輸送も非
効率でした。



大型車の通行も可能な2車線の道となり、農家が使用
する2tトラックも増えました。
これにより ①輸送経路が短縮
②輸送の形態は、
人力+軽トラック → 軽トラック+2tトラック

オリーブの産地化を目指した取り組みが始まっています。

ミカン園でオリーブの改植



●事業実施による環境の変化

安全な輸送



走行性の悪い農道で荷傷みしていた生産物も、高品質品として出荷されます。
 <荷傷量の減少 42.9 t>

●社会経済情勢等の変化

新たな取組

私たちが
作っています。



稲取・若旦那三人衆

「稲取・若旦那三人衆」は、農道建設を契機に「農業」・「観光」・「食」を組合せた取組みとして、特産品のニューサマーオレンジを素材としたサイダーやフルーツピネガーなどの加工と販売が始まっています。



細野高原の山菜狩り



春に開催される山菜狩り。大自然と春の味覚を満喫。

市民農園の開設



H28年4月に市民農園が開設された。
 H29年には、滞在施設10棟も利用を開始する ⇨ 交流人口の増による地域活性化

伊豆見高入谷温泉のにぎわい



新鮮な農産物の販売に観光客が殺到。基幹農道の整備による観光農業との連携によりにぎわいを創出。



